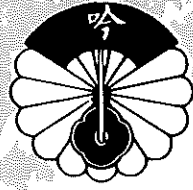


Supported by
日本吟詠会
THE NIPPON
FOUNDATION



第四十九回 全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会

来聴歓迎・入場無料

主催 公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

港区文化芸術活動継続支援事業

○とき 令和四年三月十三日(日)

午前九時開場・午前九時三十分開会

○ところ 笹川記念会館国際ホール

(裏表紙参照)

大会次第

- 一、開会の辞
 - 一、国歌斉唱
 - 一、財団会詩合吟
 - 一、財団代表挨拶
 - 一、大会実施要項説明
 - 一、審査委員紹介
 - 一、競 吟
- 一、審査講評
 - 一、審査結果発表並びに入選者表彰
 - 一、閉会の辞
- (注意)
役員集合 午前八時四十五分
出場者集合 午前九時
- 時間厳守

第四十九回全国少壮吟詠家審査コンクール
決選大会開催にあたって



(公財) 日本吟詠詩舞振興会
会長 沼崎 富

よりいっそうの

吟道振興を

公益財団法人日本吟詠詩舞振興会主催による、第四十九回全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会が、本日にここに盛大に開催されますこと、まことに喜ばしいことと存じます。

ご来場の皆さまがたに対し、深く敬意を表しますとともに、本大会のためにいろいろとご準備をいただきました大会役員のかたがたに対しまして深く感謝申し上げます。吟詠は、老若男女だれでも気軽に楽しめる伝統芸道であると同時に、その芸を通して人の道、特に「礼と節」を教

財団法人日本吟詠詩舞振興会会詩

世川良一作

朝に吟む夕に舞はば心身と錬
 礼節持し末て互に真と養
 世界は一衆 皆我友
 願わくば斯道と興して人倫を正す

各川精江書

えるものであり、今日までの日本の民族精神の形成において大きな役割を果たしてきたばかりでなく、これからのわが国の精神文化の高揚においても大きな期待がかけられております。

この吟詠が、いまや全国的な規模で、一般はもとより、次代をなう青少年の間におきましても盛んになっておりますことは、まことに喜ばしいこととあります。

本大会は、全国の少壮吟詠家の日ごろの研鑽を競う場と同時に、すぐれた少壮吟詠家選出の場とし、吟詠の芸術的向上を図り、あわせて吟詠詩舞道の普及振興に資することを目的とするものであります。

出場者の皆さんにおかれましては、日ごろの精進の成果を十分に発揮して、よりよい成績をおさめられるよう希望し、また、ご来場の皆さまにおかれましては、芸術的・音楽的に進歩した吟詠の今日像を正しく理解され、ひとりでも多くの人が斯道に親しむよう期待してやみません。

同 副委員長 長谷川煌研
委員 宇井 修光
立田 翔善
星野 紫栄
林 煌彩

◎受付委員長 上久保雪女
同 副委員長 寺山 天洲
委員 岡 眺蘭
吉野 煌瑤

◎連絡委員長 星野 洲虹
同 副委員長 榊 裳風
委員 松宮 岳謳
三浦 暁泉
須藤 絃誓

◎司会委員長 田中 国臣
同 副委員長 丹治 独風
委員 神尾 照水
今村 契鉅
大山 宗鵬

◎広報委員長 後藤 月戈
同 副委員長 小谷野 焔弘

◎詩文監査委員長 佐々木 翠鵬
同 副委員長 中野 吟紫

垣下 真萩

◎賞状作成委員長 室橋 谿月
同 副委員長 石井 錦文
委員 五十嵐 谿紀
稲葉 谿羊

◎会場委員長 小峯 吳苑
同 副委員長 三枝 契憲
委員 目黒 恭鵬
福田 秀峰
片桐 國佑

◎大会本部事務局 大田 直樹
事務局 長 大塚 政暢
事業課 長 代理 鶴町 和成
総務 係 長

◎吟題委員長 久保田正峰
同 副委員長 渡辺 錦翔
委員 加藤 契琵
小澤 香山
菅原静麿佐
津藤 孝風
伊藤 契麗

◎音響記録委員長 小林 岳章
同 副委員長 大関 勝風
委員 高柳 玄山
岡田 一穂
湯口 岳政
奥谷 宝昌

◎集計委員長 熊木 雪洲
同 副委員長 土屋 恵鵬
委員 麻生 契春
山田 彩綺
高橋 嶺香

◎接待委員長 石井 桃苑
同 副委員長 中嶋 美声
委員 大森 精翠
滝本 紫苑

◎賞典委員長 鈴木 吟亮
同 副委員長 河上 麗風
武藤 嶺栄

◎第四十九回少壮コンクール指定吟題

絶句

- 1 月夜三叉口に舟を泛ぶ (高野 蘭亭)
 - 2 泉岳寺 (坂井 虎山)
 - 3 新涼書を読む (菊池 三溪)
 - 4 金州城下の作 (乃木 希典)
 - 5 鶴鶴楼に登る (王 之 換)
 - 6 元二の安西に使用するを送る (王 之 換)
 - 7 白楽天の江湖司馬に左降せらるるを聞く (元 稹 維)
 - 8 金鏤の衣 (杜 秋 娘)
- 続絶句
- 9 山中の月 (藪 孤山)
 - 10 阿彌嶺 (頼 山陽)
 - 11 西教寺を訪う (広瀬 淡窓)
 - 12 時事偶感 (杉浦 重剛)
 - 13 天門山を望む (李 重 剛)
 - 14 董大に別る (高 適 甫)
 - 15 江畔独歩花を尋ぬ (杜 甫)

第四十九回全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会実施要項

(1) このコンクールは、公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会（以下財団と呼ぶ）が実施するもので、全国の少壮吟詠家の日ごろの研鑽を競う場とすると同時に、すぐれた少壮吟詠家選出の公の場とし、吟詠の芸術的向上を図り、あわせて吟剣詩舞道の普及振興に資することを目的として、都道府県大会（第一次予選）・地区大会（第二次予選）・全国大会（決選大会）の形式で行われるものである。

(2) このコンクールの参加資格は、財団加盟の各団体・各流・各会所属の吟詠家で吟歴七年以上、指導歴三年以上で、年令が令和三年四月一日現在、満三十五歳以上五十五歳以下（昭和四十年四月二日以後昭和六十一年四月一日以前に生まれた人）で、会長以上の責任者の推薦を受けた人とする。ただし、年齢に関しては前年度の決選大会で入選者となった場合に例外を認める。

この決選大会の参加者は、地区大会入選者と、前年度の決選大会においてこの決選大会に直接出場する権利を得た者に限られる。

(3) このコンクールの決選大会は、財団本部が主催し、その運営は全国大会実行委員会が担当して次の審査要領によって実施する。

- (イ) 審査委員は原則として本部役員と邦楽専門家によって構成され、財団本部理事会で決定する。
- (ロ) 一般審査の出吟順は、申込締切後に厳正公平な抽選で決定した決選大会プログラム順の順番どおりに行い、吟題はすでに発表された指定の絶句十五題のうちから選択する課題制とする。なお吟題決定の方法は、
 - ① 封筒十五通を一組とし、この封筒の中に①～⑮までの詩文六枚ずつを入れておく。

⑥ 出吟者は次のように区分する。

1 15、16、30、31、45、46、60、61、65

⑦ 各区分のトップ出吟者が出吟前四十分（二十番後）になつたとき抽選する。

⑧ 出吟者は六枚の詩文に出吟番号、氏名、音程及び曲目（音程及び曲目の記入は一枚のみ）を書き込み、吟題委員長に提出、吟題委員長は確認印を押し、一枚を司会、一枚を音響（音程及び曲目記入分）、一枚を詩文監査、二枚を発音審査委員に提出、一枚を出吟者に渡す。（出吟中この詩文を見て吟じてよい）

音程は、あらかじめ届け出たものとし、当日の変更は認められない。

⑨ 吟題委員は別に出吟者詩文原簿を作成する。

⑩ 吟題抽選順は各区分とも出場順の若いほうを先とする。

(ハ) 吟じ方は、まず司会者が出場者の番号・氏名・吟題を紹介し、出場者は財団指定の「吟剣詩舞道伴奏集」の前奏を確認して吟じ始める。吟題は言わず、出吟前後の敬礼は省略する。

(ニ) 吟詠時間は吟じ始めてから二分以内に吟じ終るものとする。

(ホ) 次の場合は失格とする。

① 出吟までに吟題決定の所定の手続きを行わなかった場合。

② 出番のときいかなかった場合。

③ 課題吟以外のものを吟じた場合。

④ 詩文の読みが指定されたものと異なった場合。

⑤ 吟詠の途中で絶句（つかえること）した場合。

⑥ 吟じ始めてから二分を超えた報せのベルが鳴った場合。

⑦ その他、審査委員長が失格と認めた場合。

(ニ) 成績の判定は「吟詠コンクール審査規定」（日吟振内規）によるものとし、発声（声質、技術）、調和、発音、詩心、態度の五項目とし、得点の多い者を上位者とする。同点の場合は審査委員長（または委員長代行）の得点が多い者を上位とする。審査委員長（代行）の得点も同点の場合は、審査員のプログラム掲載序列順に、上位の審査員の得点が多い者を上位とする。

(ト) 審査の採点は次の各項にウエイトをおいて行う。
 ① 声の美しさ、品性、淡さなどとともに、発声の自然さ、声量の豊かさ、声の明瞭さ、節回しのよさがあるかどうか。

② 伴奏曲と調和（音程を含む）しているかどうか。

③ 共通語アクセント（あたりを含む）及びガ行鼻音が正確かどうか。

④ 詩情表現の的確さ、味があるかどうか。

⑤ 舞台マナー、吟詠マナー、社会人としてのエチケットが備わっているかどうか。

(4) 入選者は審査終了後、審査委員会議で決定され、その発表は一般審査の終了後に行われる。入選者数は十五名以内とする。入選者は、次年度のこのコンクールにおいて、第一次、第二次の予選を受けることなく決選大会に直接出場する権利を得る。

(5) 特別審査等規定を次のとおり定める。

(イ) 入選者は大会当日会場で全国大会入選者として表彰し、次年度に行われる全国吟剣詩舞道大会への出演者に推薦される。

(ロ) 少壮吟士候補として推薦された人は、別に定める資格審査を経たのち、全国吟剣詩舞道大会の式典において少壮吟士として認定、表彰される。

「注意」

一、詩文の読み方は財団発行の『吟剣詩舞道漢詩集』に、また詩文のアクセントは財団発行の『吟剣詩舞道アクセント付き漢詩集』によります。

二、出場者が、抽選用詩文用紙以外の詩文を見ながら吟じる場合、用紙の大きさは、はがき大とします。

三、成績発表並びに賞状授与の時に不在の人は失格となります。

四、本コンクールにおいて財団が撮影した写真や映像については、財団が発行する雑誌、公式ホームページ及びテレビ放映などにて使用する場合があります。

(イ) 決選大会にすでに二回以上入選している人（以下「少壮吟士準候補」と呼ぶ）は、一般審査での成績が上位十位以内の場合は、出場者吟詠終了後に行われる特別審査に出場する。

(ロ) 特別審査の吟題は律詩課題制とし、出場者吟詠終了後、直ちに行われる五人単位の抽選によって決められたものを吟じるものとする。

(ハ) 少壮吟士準候補のうち、特別審査で一定の基準以上の成績を収めた人は少壮吟士候補として推薦される。

(ニ) 少壮吟士準候補のうち、特別審査で一定の基準以上の成績を収めることができなかった人は、入選者とみなされないが、次年度コンクール参加資格の年齢制限にかからない場合、次年度決選大会に直接出場する権利を得る。

(ホ) 少壮吟士準候補のうち、一般審査で上位十一位から十五位の人は、入選者とみなされず、次年度決選大会への直接出場の権利は得られない。なお、この場合は協議のうえ入選者を繰り上げる場合がある。

(6) 決選大会参加者の特典を次のとおり定める。

◎プログラムは大会当日必ずご持参下さい。

◎今回の地区別決選大会出場者数

員数	地区別
1	北海道
2	東北
20	東日本
7	中部
11	近畿
3	中国
9	四国
10	九州
2	第48回等入選者
65	計

◆コンクール出場者

出吟順	氏名	推薦総連	成績
8	恒成育香	大分	
7	辻寛子	神奈川	
6	久保田明理	奈良	
5	山村幸子	大阪	
4	花崎亜伊	長野	
3	吉澤純子	東京	
2	和田友美	徳島	
1	土方圭秀	東京	

出吟順	氏名	推薦総連	成績
17	江藤奉史	大分	
16	吉田あゆみ	大分	
15	中島秀人	長崎	
14	牛島美和	福岡	
13	河内明子	愛媛	
12	渡部仁詞	福島	
11	岩崎玲子	群馬	
10	乾夏夫	高知	
9	松谷菜穂	埼玉	

出吟順	氏名	推薦総連	成績
26	君島景子	栃木	
25	飯干京子	愛知	
24	佐藤仁美	新潟	
23	真壁知子	東京	
22	赤松由紀	京都	
21	原奈緒子	三重	
20	小林はるか	熊本	
19	池田あゆみ	千葉	
18	土田絵里香	神奈川	

36	木屋優東	東京	
35	片山辰夫	香川	
34	桶谷麻美	富山	
33	小笠原千洋	静岡	
32	林田麻由	大分	
31	原田理絵	東京	
30	椿友子	神奈川	
29	田中達也	香川	
28	竹内彩	京都	
27	小野寺雅美	香川	

46	町映子	兵庫	
45	西岡佐智世	大阪	
44	大森加織	愛媛	
43	中西光恵	兵庫	
42	大平美代	宮崎	
41	太田武志	千葉	
40	中澤宏	茨城	
39	栃木和子	栃木	
38	平野千草	佐賀	
37	山岡瑞恵	高知	

56	古比谷明子	大阪	
55	徳安秀作	福岡	
54	植田そのみ	京都	
53	野田垂矢子	東京	
52	藤原幸	広島	
51	七五三聖子	兵庫	
50	阿部容子	道央	
49	奥山久美子	京都	
48	中野康子	広島	
47	藤田京子	福岡	

出吟順	氏名	推薦総連	成績
65	藤田 ゆかこ	東京	
64	川口 和典	福岡	
63	郡司 明子	群馬	
62	赤塚 善夫	愛知	
61	吉本 綾	広島	
60	原田 佐知子	愛知	
59	高司 陽子	東京	
58	佐藤 好美	東京	
57	篠原 久代	香川	

◎第五十回少壮コンクール指定吟題

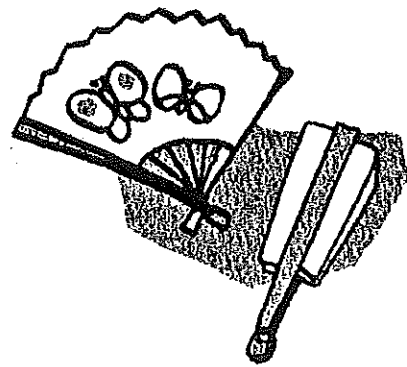
絶句

- 1 花に対して旧を懐う
 - 2 海南行
 - 3 豊公の旧宅に寄題す
 - 4 舟大垣を発し桑名に赴く
 - 5 酒に対す
 - 6 秋 思
 - 7 独 柳
 - 8 剣門の道中にて微雨に遇う
- 続絶句
- 9 無 題
 - 10 芳野に遊ぶ
 - 11 偶 成
 - 12 絶命の詞
 - 13 越中覽古
 - 14 中秋月を望む
 - 15 従軍行

- (釈 義堂) (細川 頼之) (荻生 徂徠) (頼 山陽) (白 居 易) (許 牧 渾) (杜 游) (陸 游)
- (阿倍仲麻呂) (頼 杏坪) (松平 春嶽) (黒沢忠三郎) (李 白) (王 建) (乾 隆 帝)

決選特別審査用 (律詩・古詩)

- 1 (日一4) 九月十五夜 (菅原 道真)
- 2 (日一24) 筑前城下の作 (広瀬 淡窓)
- 3 (日一57) 大楠公 (河野 天籟)
- 4 (中一6) 帰 省 (秋 仁 傑)
- 5 (中一42) 山中の月 (真 山 民)



大会 予告

●第五十二回全国吟剣詩舞道大会

▽とき 令和四年五月五日(祝日)

▽ところ 北とびあ・さくらホール

(東京都・北区王子)

●令和四年度夏季吟道大学(予定)

▽とき 令和四年七月十六日(土)

▽ところ 勤労青少年水上スポーツセンター

(愛知県・碧南市)

※今後の社会情勢の
変化により、日程の
変更・中止の可能性
がございます。

水六訓

- 一、あらゆる生物に生命力を与えるは水なり。
 - 二、常に自己の進路を求めてやまざるは水なり。
 - 三、如何なる障害をも克服する勇猛心と、よく方円の器に従う和合性を兼ね備えるは水なり。
 - 四、自から清く他の汚を洗い清濁併せ容るの量あるは水なり。
 - 五、動力となり光となり、生産と生活に無限の奉仕を行い、何等報いを求めざるは水なり。
 - 六、大洋を充し、発しては蒸気となり、雲となり、雨となり、雪となり、霞と化してもその性を失わざるは水なり。
- 水を心とすることが平和と健康と長寿の妙薬であります。

笹川良一

全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会入選者一覧表 ()内数字は入選回

〈三回入選者一五三名〉

石井 武 (1)(2)(3)	長岡 政秋 (1)(2)(3)	長谷本延藤 (1)(2)(3)	本村 政子 (1)(2)(3)	横田 博 (1)(2)(3)	奥蘆 道子 (1)(2)(3)	高橋 忠 (1)(2)(3)
金井 常幸 (1)(2)(4)	小林 久 (2)(3)(4)	土方 友一 (2)(3)(4)	増田 忠和 (2)(3)(4)	仁科 教博 (2)(3)(5)	箕輪 武人 (1)(3)(4)	秀平 昌巳 (2)(3)(5)
渡辺 修正 (1)(4)(5)	佐々木貫二 (1)(4)(5)	中尾 克久 (2)(3)(6)	辻島 利隆 (2)(4)(5)	真木 孝三 (2)(5)(6)	三田 和気 (1)(5)(6)	鈴木 治 (4)(5)(6)
森下 誠子 (5)(6)(7)	若原 将昭 (2)(5)(7)	阿部 欽宗 (4)(5)(7)	村辺 辰子 (2)(5)(7)	忽那 哲夫 (3)(4)(7)	八代 正輝 (3)(4)(7)	沼田 益定 (3)(4)(7)
中澤 治重 (6)(7)(8)	久住 利彦 (6)(7)(8)	志塚 巖 (5)(6)(8)	渡辺 虎雄 (3)(7)(9)	幡地 輝政 (3)(6)(9)	藤河 清平 (6)(8)(9)	横山 寿宏 (4)(7)(9)
陶山 昇平 (6)(7)(9)	大木 弘泰 (2)(6)(9)	海老澤元孝 (5)(6)(9)	松葉 勲 (5)(7)(10)	岡田 陽介 (6)(8)(10)	西山 正男 (4)(6)(10)	秋山 昌徳 (1)(2)(10)
田中 幹康 (5)(9)(10)	金戸 久恵 (9)(10)(11)	瀬戸喜久子 (7)(9)(11)	竹内 隆一 (8)(9)(11)	斎藤 愛子 (6)(7)(11)	安福 安子 (8)(9)(12)	杉山 広子 (8)(11)(12)
山下 勝春 (9)(11)(12)	山本 剛 (10)(11)(12)	工藤 信義 (5)(6)(13)	田邑喜代子 (9)(11)(13)	山岡 紀子 (12)(13)(14)	橋本かつ美 (12)(13)(14)	木村 弘 (11)(12)(14)
藤田 欣吾 (9)(10)(14)	田畑 一子 (11)(12)(13)	菅 利気恵 (13)(14)(16)	徳田 良子 (14)(15)(16)	斎藤 信之 (11)(15)(16)	山口 英二 (5)(11)(16)	藤原美知子 (16)(17)(18)
白波瀬正司 (16)(17)(18)	奥村 愛 (15)(16)(18)	有森 孝子 (12)(15)(20)	木村 武正 (15)(19)(20)	大森加寿子 (18)(20)(21)	河田 千春 (18)(20)(21)	辰巳日出子 (18)(20)(21)
吉村 都嗣 (9)(16)(21)	池田 与一 (19)(21)(22)	宮野 圭司 (14)(16)(23)	大熊 秀子 (18)(19)(23)	北瀬くみ子 (19)(22)(24)	北村 紀子 (9)(17)(24)	松野 幸男 (22)(23)(24)
白井 寛雄 (14)(21)(24)	池田 京子 (22)(23)(25)	矢田 勝利 (9)(22)(25)	渡辺亜希子 (23)(24)(25)	清水 一 (19)(21)(25)	田中 和夫 (17)(19)(25)	梶田 勝美 (20)(21)(27)
前山 良彦 (23)(25)(27)	中野 民子 (19)(21)(27)	伊藤美智子 (25)(26)(28)	明神 春恵 (23)(26)(28)	岸木 伸子 (26)(27)(28)	八代 美恵 (27)(28)(29)	久保 早苗 (25)(28)(29)
大木津多代 (28)(29)(30)	米本 敬子 (26)(27)(30)	伏尾 函子 (21)(22)(31)	塚本 康江 (21)(26)(31)	中武 玲子 (27)(28)(31)	塩澤比早江 (25)(29)(31)	後藤 憲子 (18)(27)(32)

田中 文夫 (29)(30)(32)	辻本 圭子 (28)(31)(32)	大澤 三枝 (29)(31)(32)	陣川 章尊 (22)(24)(33)	長山 祝子 (31)(33)(34)	村岡 小雪 (29)(30)(34)	山岡 貴子 (32)(33)(34)
今村 晴夫 (25)(33)(34)	成田眞秀子 (31)(32)(35)	宇井 久絵 (33)(34)(35)	田中 和美 (33)(34)(35)	尾崎 富美 (33)(35)(36)	小林 富子 (33)(35)(36)	土澤なぎさ (34)(35)(36)
山中富美子 (19)(20)(36)	前田 卓美 (34)(36)(37)	府川有紀子 (34)(35)(37)	米山久美子 (31)(36)(37)	猪木原美香 (32)(33)(38)	安藤 聖子 (35)(36)(38)	佐々木康人 (32)(37)(38)
向山 里水 (35)(37)(38)	巽 正博 (33)(36)(38)	奥山阿佐子 (37)(38)(39)	梶原 礼子 (35)(37)(39)	加藤 洋子 (32)(36)(40)	原田今日子 (38)(39)(40)	菊野ひろみ (37)(39)(40)
植田恵理子 (36)(39)(40)	和田美代子 (31)(33)(41)	松葉 洋和 (38)(40)(41)	辻 久美子 (38)(41)(42)	向山 人水 (40)(41)(42)	堤 由美 (40)(41)(42)	青木加代子 (40)(41)(42)
長谷川英子 (40)(41)(42)	浅田 圭一 (38)(39)(43)	廣瀬 詔子 (40)(42)(43)	小池 貴子 (41)(42)(43)	石川 和男 (36)(42)(44)	林 明美 (42)(43)(45)	蒔田 直子 (39)(44)(45)
今城 栄子 (41)(44)(45)	山中真理子 (43)(44)(45)	野嶋 志帆 (43)(44)(45)	箱田 朝子 (43)(44)(46)	伊東 智子 (43)(44)(46)	田村 勇樹 (42)(44)(46)	中野 理恵 (43)(44)(47)
岩永 優 (44)(46)(47)	関口 ゆり (44)(46)(47)	星野 早苗 (44)(45)(48)	石川 千尋 (41)(47)(48)	林 綾香 (41)(45)(48)	大山 知巳 (39)(46)(48)	

〈二回入選者八十七名〉

玉村 暢郎 (1)(4)	樋口 捷一 (2)(3)	綿引 建次 (2)(3)	上原 豊 (2)(6)	小川 澄子 (2)(3)	中川 好和 (2)(3)	関口 法男 (2)(4)
大野 悠光 (4)(5)	木村 学 (4)(6)	久賀美和子 (6)(8)	甘利 修一 (4)(8)	酒井 純 (6)(8)	松隈 睦子 (8)(9)	加藤佐喜子 (6)(10)
太田加代子 (8)(10)	中嶋 初子 (8)(10)	広山幸太郎 (11)(13)	加藤 桂子 (12)(13)	橋本 東峰 (13)(14)	鈴木 輝明 (13)(14)	太田 弘子 (15)(16)
前重 興亮 (11)(17)	渡辺ヨリ子 (10)(17)	長谷川ユウ子 (16)(17)	山本 墨江 (13)(18)	安藤 定喜 (17)(18)	本田修二朗 (18)(19)	埜辺 保英 (14)(19)
佐藤 弘子 (13)(19)	中川 千鶴 (16)(19)	入江 敏夫 (17)(19)	森川 祐幸 (15)(20)	小野 真理 (20)(21)	平田 公三 (16)(21)	藤本佐喜子 (20)(21)
山城 明久 (7)(23)	久保 義嗣 (18)(23)	黒田せつ子 (22)(24)	竹内喜八郎 (23)(24)	為国 馨 (18)(24)	矢野 泰三 (14)(24)	福島 弘子 (23)(24)
池田 功 (22)(24)	堀井 良美 (24)(25)	湯本 忠夫 (20)(26)	小林 千弘 (26)(26)	奥津 公男 (22)(26)	北浦 宏子 (23)(26)	北村 孝子 (25)(27)

〈一回入選者一四七名〉

佐藤喜知子 (23) (27) 菫田 初子 (27) (29) 森本三恵子 (27) (29) 中筋 和子 (30) (32) 宮崎 瑞枝 (31) (33) 小川美登里 (32) (33) 甲斐 君子 (33) (36) 牛尾 明 (28) (36) 村山 凉子 (34) (37) 岩城 伸子 (38) (40) 南方 栄 (37) (41) 井川 良得 (38) (42) 平野 千草 (42) (45) 藤井 真美 (43) (45) 今井美津子 (44) (45) 郡司 明子 (46) (47) 恒成 育香 (42) (48) 牛島 美和 (46) (48) 野上 孝時 (45) (46) 藤原 幸 (40) (42) 津田 千夏 (41) (43) 梅村 佳代 (45) (46) 竹内 彩 (45) (46) 大森 加織 (45) (47)

飯森福太郎 (1) 山本 琳子 (1) 長屋 幸吉 (1) 児島 忠夫 (1) 井口 恵弘 (1) 伊藤ひさ子 (1) 幸田 勝弘 (1) 平形 亨 (1) 三好 紀夫 (2) 松坂比呂志 (2) 莊司 愛 (3) 池川 国章 (3) 長降 康子 (3) 米谷さつき (3) 豊満 富治 (3) 鈴木 恵子 (3) 吉田 佳子 (3) 秋葉喜代子 (3) 佐藤 義信 (3) 本田 昭 (4) 石本今朝幸 (4) 多々良 剛 (4) 町田 敏子 (4) 斎藤喜八郎 (4) 羽切 弘行 (4) 森下 猛 (4) 高山 正彦 (4) 業林 睦朗 (4) 朝倉 芳男 (5) 佐々木敏郎 (5) 清水口晴子 (5) 陶山 邦男 (5) 元岡 専一 (5) 山本 正 (6) 佐藤美智子 (6) 中山 駿一 (8) 緑川 都子 (8) 大川 行男 (8) 日置 則男 (6) 深沢 勝昭 (7) 前田 嘉弘 (8) 佐々木孝子 (7) 小谷 集徳 (9) 宮内美津子 (9) 松永 恒夫 (10) 園山 順子 (10) 為房 進一 (10) 安部 功二 (11) 佐野智洋子 (11) 石原三喜雄 (11) 小塩 益弘 (11) 染田 恭次 (12) 柳内 修 (12) 久和かず子 (12) 金子今朝美 (13) 大西 幹久 (13) 西村 淳子 (14) 藤田九一郎 (14) 松本 浩有 (15) 藤岡 静江 (17) 松崎 圓子 (15) 一色 敏子 (15) 早瀬 悦子 (15) 風呂谷照代 (15) 大山 幸良 (16) 藤田 洋子 (16) 藤岡 静江 (17)

神賀 明子 (17) 大西 博美 (17) 村上 和美 (18) 横山 真吾 (18) 小坂 康子 (18) 平内 美之 (19) 寫田智恵子 (19) 岡林 一孝 (20) 板谷加代子 (21) 舛田 萬和 (21) 田村 謙地 (22) 宮本 俊明 (23) 武田志津子 (23) 森田 和子 (24) 西原 玲子 (24) 岩間 弘光 (24) 村勸 利和 (24) 金子 昭二 (25) 池田 由乃 (26) 塚本 金吾 (26) 廣瀬百合子 (26) 鈴木 順子 (26) 永瀧みどり (27) 森田 智子 (27) 古城久美生 (28) 谷崎 次男 (28) 大石千津子 (28) 石原 光浩 (28) 大島 哲夫 (28) 富山 正一 (29) 竹内 芳子 (29) 渡辺 久晃 (29) 黒柳 貞子 (29) 澤田 智子 (30) 橋本 貴守 (30) 盛満 眞弓 (30) 河田 久子 (30) 山本やすみ (30) 林 潤子 (30) 古賀千恵子 (30) 加茂 久子 (31) 児島 節 (32) 田村 純子 (32) 麻生 義人 (34) 大野 広美 (34) 米田 千春 (35) 石井 町子 (35) 亀井きみ子 (35) 彌川しげ子 (36) 坂本 裕観 (37) 丹羽 峰子 (37) 小坂 友二 (38) 井本 雅代 (38) 柳本久美子 (38) 北川 達也 (39) 吉田 博 (39) 石田 義則 (39) 森脇 弥生 (39) 安部 悦子 (40) 松浦 慶治 (40) 吉本 綾 (40) 古賀 智美 (41) 仲宗根 香 (41) 栗田 優子 (43) 下河邊智佳子 (43) 赤塚 善夫 (44) 吉澤 純子 (45) 高橋 恵子 (47) 桶谷 麻美 (46) 高橋真衣子 (46) 赤松 由紀 (46) 植田そのみ (46) 西岡佐智世 (47) 林田 麻由 (47) 高橋 恵子 (47) 赤松 由紀 (46)

月刊 吟と舞

日本吟剣詩舞振興会が発行する会報「吟と舞」は、全国の吟剣詩舞道愛好家の皆さまの情
報誌として、毎月発行されています。

振興会の公式行事や各地で開催される各流
派の大会の様様、他分野の著名人を招いての座
談会、吟剣詩舞に関する専門的解説、テレビや
ラジオでの放送内容や番組表など、吟剣詩舞フ
アンにとって見逃せない情報が満載されてい
ます。

●ぜひ、あなたの購読をお勧めします。

どなたでも購読できます。どうぞ、お気軽
にお申し込みください。

購読料◆年間購読料五、〇〇〇円

(消費税込み)

申込方法◆月刊『吟と舞』申込書購読料振替用

紙に、所要事項をご記入の上、年間

購読料五、〇〇〇円を添えて最寄り

の郵便局へお出しくださいさるようお

願いいたします。

◆月刊『吟と舞』についての問い合わせ先

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会事務局

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10 虎ノ門35森ビル7階

TEL 03-6721-5950 (代表)

FAX 03-6721-5960

吟剣詩舞道憲章

詩歌は人の心の表現であり、すぐれた詩歌は人類文化の遺産で
ある。われわれの先達は、この詩歌を吟じ、その吟により舞うこ
とを考え、芸としての向上進歩を目ざして精進努力を重ね、吟詠・
剣舞・詩舞というわが国独自の高雅な芸道を育てあげた。
吟剣詩舞道は礼と節を、その心とする。詩歌に親しんで情操を
高め、日本民族の心を探究しながら自己の陶冶を志向するこの芸
道こそ、わが国の精神文化の高揚に不可欠のものである。
われわれは、この価値ある吟剣詩舞道を受け継いだことにお大き
な誇りをもつと同時に、各人の研鑽と相互の協力によってますます
斯道を隆盛に導く責任を果たさなければならない。しかも、そ
の実践は、この芸道の心、すなわち礼と節の上にたたなければな
らない。その軌範として、この憲章を制定する。

昭和五十年一月十一日

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

会長 笹川良一

ほか 役員一同

一、基本姿勢

吟剣詩舞道を行なう者は、礼と節とを行動の軌範とし、日々、芸の
研鑽と品性の陶冶に努める。

二、指導者の心構え

吟剣詩舞道を指導する者は、みずから師たるにふさわしい人格、識
見を備え、指導全般にあたっては権威をもって臨む。

三、師に対する心構え

吟剣詩舞道を学ぶ者は子弟の礼節をわきまえ、秩序を堅持する。

四、分家・独立

吟剣詩舞道を行なう者が分家・独立する場合は、その組織を代表す
る者の許しを得る。

五、他流との関係

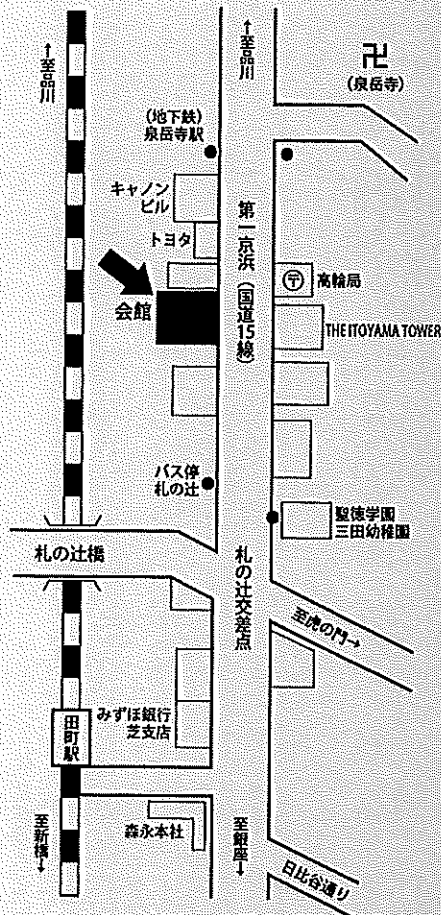
吟剣詩舞道を行なう者は他流の名譽を傷つけ、秩序を乱すような言
動は厳に慎む。

六、吟剣詩舞道の普及向上

吟剣詩舞道を行なう者は、大衆性と芸術性とを併せもつ斯道の今日像
を正しく伝え、特に青少年層における吟剣詩舞道の普及向上に努める。

七、吟剣詩舞道の目標と相互の協力

吟剣詩舞道を行なう者は、相互に協調、互譲の精神をもって斯道の
普及振興に協力し、本会の認める姉妹団体とも動物有機体的団結をも
つて日本の伝統に基づく国家社会の正しい発展に寄与する。



笹川記念会館

〒108-0073 東京都港区三田三丁目 12 番 12 号 TEL.03(3454)5062

- (最寄駅) ● JR 田町駅(三田口)より徒歩約10分
 ● 地下鉄都営浅草線、泉岳寺駅より徒歩約7分

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10虎ノ門35森ビル7階
 電 話 (03) 6 7 2 1 - 5 9 5 0 (代表)
 F A X (03) 6 7 2 1 - 5 9 6 0